

新図書館整備に関する座談会の主なご意見

視点	主な意見
新図書館の方向性について	<ul style="list-style-type: none">・新図書館には、図書館としての基本機能と、新しい機能があるが、後者に寄り過ぎず、バランスを意識してもらいたい。・新横浜は新幹線駅であり、横浜の玄関口ともいべき場所である。多くの方に横浜の魅力を発信する機能が必要である。・横浜らしい図書館になるとよい。例えば、異文化や緑を大切にすると横浜らしさとなる。・本に触れる機会の確保という点で地域館や学校図書館が重要であり、新図書館が各施設の活動を支援する立場になるべき。・新横浜のまちの特徴を考慮したほうがよい。交通の便や緑の豊かさなど都内とは環境が違う。また、昨今流行している量産型の図書館ではなく、ターゲットを明確にしたほうがよい。・新横浜はライブ等で人が多く集まる。人混みの中に子どもを連れて行けるのかという懸念がある。「誰のための図書館にするのか」「今後、長期間にわたり利用される施設となるのか」という不安がある。求められる機能も、一般的な図書館とは異なると思料する。・図書館と書店は異なる。巨大な書店ではなく、図書館の本質を考えたいうえで整備する必要がある。・新図書館自体には期待している。シリウスのようなものができればよい。旅先でも図書館を目指していくことがある。旅の目的地にもなるような図書館だといいい。子供が来やすい、別の目的で来た人がついでに立ち寄りといった形態があれば、本に触れる機会が増えるだろう。これまでは本好きな人は図書館に行くが、そうでない人はいかない。多様な人が利用するようになればよい。・ネーミングが重要である。図書館だと、昔ながらの静粛な空間を想起してしまう。
利便性・アクセスについて	<ul style="list-style-type: none">・新横浜は気軽に行ける場所ではないと感じる。地域館はより身近な憩いの場とし、新図書館は本好きや共創の場となるような役割分担が必要と考える。・新横浜を候補とした理由として、5路線が乗り入れていることが示されているが、デジタル化を推進するのであれば、アクセス性が高くなければいけない理由はないのではないか。・「人が集い、体験する施設」であれば、駅から近いというのは魅力である。・新幹線を待つ人や周辺のアリーナ利用者なども来館されることが予想され、人流が課題となる。例えば、事前予約性とするなどの対応が必要と考える。・現在の横浜市の図書館は、「誰もがアクセスでき、情報を取得しやすい場」にはなっていない。問題点としては、図書館へのアクセス性が低く、駐車場が少ない。閲覧席も少なく、サインも分かりにくい。大前提として、都内は夜8時までの開館時間が多いのに、平日17時で閉館することは利用者にとって不便であり、開館時間の見直しが求められる。

新図書館整備に関する座談会の主なご意見

視点	主な意見
<p>バリアフリー・インクルージョン</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・外国人、障がい者の方への対応を今から考えていくべきである。 ・バリアフリー機能の視点が平時と災害時の双方で必要となる。 ・誰もが本を読めるように読書バリアフリー法が制定されたが、あまり浸透していない。スウェーデンの図書サービス「りんごの棚」を参考にし、センサリールーム（クールダウン室）、大活字本、点字本、布絵本、LL本、DAISY図書を取り入れるとよい。学校図書館でもそれらの導入が始まっているなかで、今後多くの図書館で広まるとよい。布絵本の作り手が減っているため、是非取り入れてほしい。 ・図書館はコミュニケーションの場としてほしい。外国人、障がい者の方への対応を今から考えていくべきである。今までにないものを作ろうという発想が必要であり、慎重に進めていただきたい。
<p>蔵書・資料・メディアの充実等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・市の文化資料・郷土資料を蓄積できる機能があるとよい。新図書館は、そのような資料を蓄積する拠点になる必要がある。蔵書数を増やすこと、メディアを多様化することだけでなく、「どのような情報を集めるか」も重要な観点である ・世の中がデジタル化しており、電子書籍をはじめ、使う人のニーズが少しずつ変わってきており、うまく対応すべき。 ・デジタル化等、10年後のことを考える中で、自身が子どもを図書館に連れて行きたいと思うのは、デジタルデトックスの意味合いが強い。デジタル化も重要であるが、実際に本を触って学ぶことにも重要性を感じている。10年後どの程度デジタル化が進み、それらをどの程度図書館に求めるのかということ、横浜市の意見も含め知りたい。 ・「すべての人が知識や情報を得ることができる権利を保障する」という図書館の使命に立ち返ると、常設のデジタル活用支援窓口等があることが望ましい。 ・図書館を日常的に利用していない理由は、都筑図書館の蔵書ラインナップがあまり変わらないことにある。私は、IT系の本に興味があるが、蔵書の更新がなされていない。新しいメディアとして中身がないと意味がないため、デジタル化等の手法に拘らず、入手が困難な書籍が読めるなど、内容が充実することが望まれる。
<p>施設・設備について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・設計にあたっては意匠性にも期待しているが、市民も参画できるような仕組みを取り入れてほしい。 ・気軽に行ける市民に開かれた図書館が大事だと考えるが、一方でセキュリティ面の検討も重要。 ・新図書館には駐車場などを設置すると、子ども連れも利用しやすくなると思う。 ・キッチンがあると活動の幅が広がるのではないかと。子どもの遊び場も必要である。 ・学習スペースの充実を望む。故郷の高知にはオーテピアがあり、子どもが集まって騒いでもよいスペースや静かなスペースが用意されている。また、司書のプロフェッショナル性を尊重したほうがよい。

新図書館整備に関する座談会の主なご意見

視点	主な意見
運営・市民参加について	<ul style="list-style-type: none"> ・重要なのは、図書館をどのようにして市民のコモンズにするかという点である。市民は求めるだけでなく、どのようにして図書館を維持、運営していくのかを主体的に考えるべきであろう。 ・市民が継続的に図書館の運営に関わる仕組みがないと感じた。計画段階だけでなく、開館後も市民の意見を聞く場や関わる場があることが望ましい。 ・運営においては、地域の専門家（絵本専門士、読書アドバイザーなど）と連携し、司書だけでなく市民の力も活用できるとよい。 ・学習支援のボランティアを奨励するとよいのではないかと。また、司書がどんなことを教えられるのか提示してくれるといい。司書とのコミュニケーションで興味を見つけていくこともある。 ・現状の横浜市の図書館とは異なる性質の図書館のため、現状の横浜市職員に、新図書館運営の十分な知見があるのかが疑問である。ぎふメディアコスモスでは、全国公募で専門家を招いて開業前から市民の機運を高めるような運営を行っていた。
物流ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・現状不十分である市立図書館と学校図書館との連携が強化されるとよい。 ・物流拠点も併せて整備する点が気になる。田舎にあってもよいのではないかと。一等地に整備するうえで、1フロアを物流拠点とするよりは、書架とすることが望ましい。 ・大規模施設である必要性については疑問がある。物流拠点としての施設規模を要することは分かるが、一等地である必要はない。箱物ありきの議論になってしまっている。ソフト面に関連する論点は解消が困難であろう。
学習・活動・居場所機能	<ul style="list-style-type: none"> ・「つながってもいいし、つながらなくてもよい。体験する機会はあるが、体験しなくてもよい。」という場で、無条件の需要がある空間として、本が好きではない方にも開かれた場所になることが適切と考える。日常のなかに学びがある図書館になることが望まれる。 ・図書館に行ったことがない子どももいる。子どもが本に触れるきっかけとなるよう、例えば、遠足の受け入れや手作り絵本コンクールなどが実施できるとよい。 ・子どもが学校では聞きにくいことを気軽に質問できるような、チャットレファレンス等のデジタルサービスが充実すると、広く活用してもらえると考える。 ・座席は、子どもが広々と使える席、大人が落ち着いて読書できる席など、双方が使いやすいルール・規模があるとよい
財政・市全体の方針等	<ul style="list-style-type: none"> ・多機能であるのは素晴らしいが、その反面、今後の予算や人口減少のことが心配である。 ・図書館で本当に大切なものは何か考えるべきである。 ・持続可能性も重要な視点であり、財政的な観点を考慮すべきである。多少収益が得られる部分も必要ではないか。 ・大きな公共施設は疑問。福祉など、他の政策に予算を使うべきである。